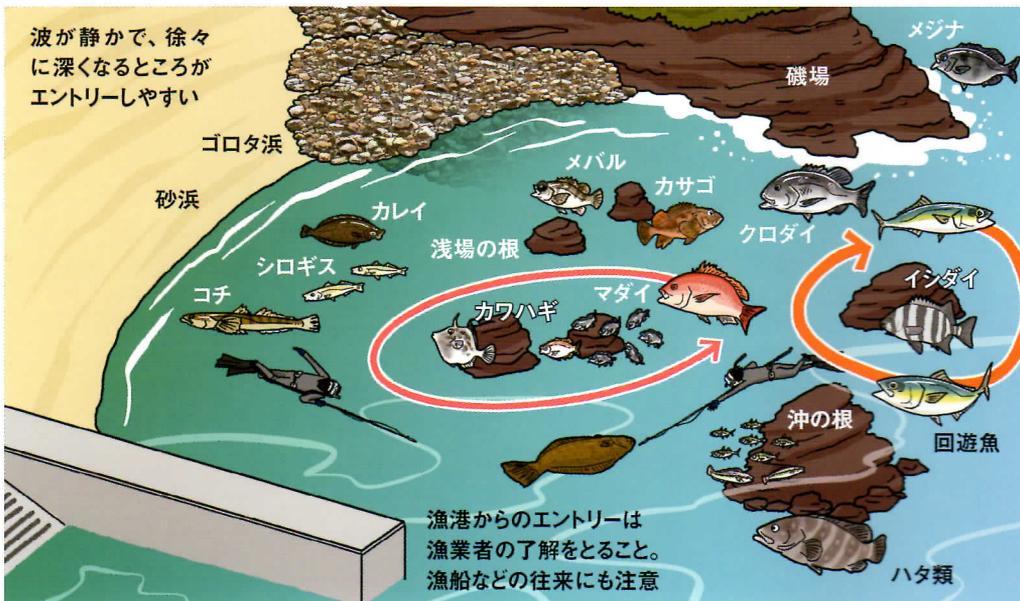




●スピアフィッシングのポイントと対象魚



スピアフィッシングでも釣りでも、魚がいるところがポイントであることに変わりはない。魚種によって棲息場所が異なるのも、釣りの経験があれば分かるはず。ピギナーが突きやすいのは、岸近くの浅場で釣れるカレイやコチ、小磯まわりにいるメバルやカワハギといったところだ。根が点在する砂地などであれば、多彩な魚たちと出会うだろう。潜るポイントを選定する際は、安全に泳ぎ、潜ることができるかどうか重要なチェック事項だ。波が荒い、潮が速いといった条件下で潜ることは危険が伴うため、十分な経験が必要になる。たとえば、潮通しがよい場所は、魚が寄りやすい好ポイントだが、その分、流されるなどの危険を伴うことを理解しよう。エントリー場所は波や風の影響を受けにくい湾内が望ましいが、漁船などの往来が多い場所では接触・衝突に十分な注意が必要。よく目立つフロートは必ず用意しよう。

●スピアフィッシングの主な対象魚



【根魚類】

ある程度の深さがあって、隠れ家となる穴などがある沖合いの沈み根などに棲み付く習性がある。根魚のなかでもハタ類は、砂地のなかの根を好む傾向があり、巣穴も小さいものであることが多い。



【中型青物】

主に沖合の根まわりで見られる。潮通しがよく、小魚が群れているところが有望だ。群れを成して泳いでいることが多いので、待ち伏せてうまく突けば、たくさんの魚を手にもすることも可能だ。



【イシダイなど】

イシダイやメジナ、クロダイは、潮当たりのいい磯場が有望。水深3m程度のところでも見かける。ただし、体長45cmを超えるような大物は、より水深のあるところの根に潜む。音などで寄せることが可能。



【大型青物】

沖の根まわりで遭遇する確率が高い。移動スピードが速い魚がほとんどだが、カンパチのように根に着きやすい魚や、シラのように水面の浮遊物に集まる魚など、魚種によって性質は異なる。



【マダイ】

磯場でも、砂地でも目撃することがある。移動範囲の広い魚。水深5m以上のところがほとんどだ。「寄せ」が有効な魚だが、個体によってはまったく寄らなかったり、距離を詰めることが難しかったりする。反面、型の大小にかかわらず、簡単に突けることもあり、難易度が評価しにくい魚といえる。

行してもらい、ポイントを見極める眼を養うといい。まわりに経験者がいなければ、インターネットなどでスピアフィッシングの同好会を探し、行動をともにするのがひとつの手だ。

なお、釣りと同様、どれだけ有望なポイ

ントを知っているかは、スピアフィッシングでも「財産」といえる。そのため、不特定多数が閲覧するインターネットの掲示板などでポイントを明らかにしたり、ポイントを気軽に聞いたりすることは、好ましくないこととされている。

ひとつのポイントにたくさんの人が入れば、場が荒れていくのは当然のこと。最初は経験者と一緒に、その人の知っているポイントで楽しめばよいが、その後は自分で、もしくは経験者とともにポイントを探してみよう。